

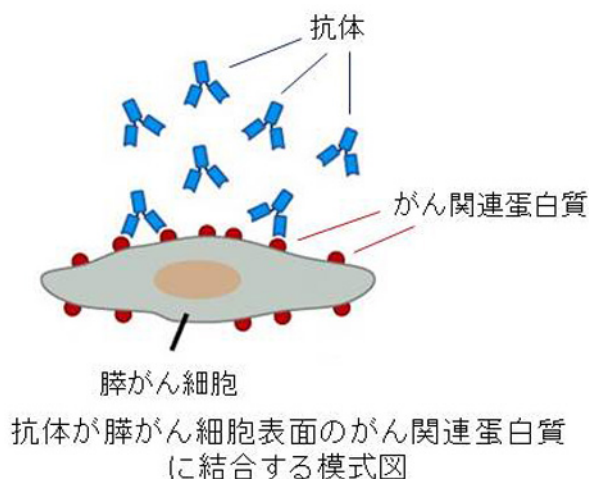
本院患者さんへの情報公開用文書

「浸潤性膵管がんにおけるMuc13およびTrop2の発現解析」（後ろ向き観察研究）についてのご説明

はじめに

膵がんは非常に治療の困難な疾患です。治療成績を向上させるべく長年に渡り臨床的、基礎的研究が行われてきましたが、現在も完治させることが困難なことになり変わりありません。よってより効果的な治療法を開発することが求められています。

今回、私たちは、当院で浸潤性膵管がんと診断され、手術を受けた約40人の膵がん患者さんの組織を対象とした研究を行いたいと考えています。本研究では膵がん組織と周囲の正常組織にどの程度、Muc13, Trop2 という2つのがん関連蛋白質が発現しているかを調べる予定です。私たちはこの2つの物質に特異的に結合する抗体（右図を参照下さい）を既に開発しているため、Muc13, Trop2 が膵がん組織に多量に発現していれば、この2つの蛋白質を発現する膵がん細胞選択的に抗がん剤を運ぶことができる抗体医薬が将来的に開発可能になると期待しています。



対象となる患者さん

2001年8月から2013年2月に当院で手術され、原発性膵管がんと病理診断された約40人の患者さんを予定しています。

研究内容

1. 対象となる患者さんの当院での診療情報を収集しデータベース化します。
2. 既に手術で切除された膵がん組織の一部（当院病理部に保管されています）を使って、Muc13, Trop2 というがん関連蛋白質ががん組織と周囲の正常組織にどの程度発現しているかを免疫組織化学という方法で調べます。
3. 上記したがん関連蛋白質の発現状況と手術後の治療経過の関係も調べます。

以上の方法で検索を進める予定ですので、本研究を行なうことで患者さんに通常診療以外の金銭的あるいは肉体的なご負担が生じることはありません。

患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、患者さん個人を特定できる情報は削除します。本研究実施過程およびその結果の公表（学会発表や論文など）の際に、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の処置について

2001年8月から2013年2月までの期間に当院で膵がんの手術を受けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は下記にご連絡ください。この研究の対象から除外させていただきます。

研究期間 (病院長承認日) ~2016年3月31日

医学上の貢献

今回の研究で発現を調べる Muc2, Trop2 が膵がんによく発現する一方、周囲正常組織での発現が乏しければ、この2つのがん関連蛋白質は治療標的となりうると考えられます。私たちが開発済みの抗体と抗がん剤を結合させた新規抗体医薬が将来的に開発されれば、この抗体医薬は膵がん細胞に選択的に結合するため、抗がん剤が正常な細胞を攻撃することにより生じる様々な副作用（血液減少、脱毛、吐き気など）を減少させることが可能と期待されます。

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所分子医学部門
研究責任者 佐久間 裕司
平日 TEL (011)611-2111 内線 2538
日曜・祝祭日・夜間 TEL (011)611-2111 内線 2538
または
〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
札幌医科大学医学部消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座
研究分担者 木村 康利
日曜・祝祭日・夜間 TEL (011)611-2111 内線 3281